



大山

大山スキーマラソン

2000.03.05 気温 > 1度 ~ 5度 天候 > 晴れ / 曇り

メンバー > 大塚賢一 45 才、木倉博 37 才、福迫順一 36 才、
中垣早人 30 才、田中彰 27 才



象山

昨年とはうって変わって快晴で、春めいたそよ風のたなびく中での大会開催である。

木倉氏、福迫氏は前日の雨にも負けずに現地でテントを張っての本場のXCスキーの実地講習も受けて相当に気合いを入れていたのだが・・・、いかんせん勢い余ってその夜にバーボンを飲み過ぎてしまいついには最悪の事態で福迫氏は当日の試合を欠場してしまっただ。一体何をしに来たのか？本人が一番に悩んでいることであろう。その点木倉氏は我々が着くやいなや、酒臭い息をまき散らしながらも初レースの早人に、あーじゃ、こーじゃと抗議をしている、スタート2時間前というのにもう気分がHighに達しているようである。

前日に3部作からなる7時間40分にも及ぶモンゴルのドキュメンタリー映像作品・・・四季・遊牧*ツェルゲルの人々*を鑑賞してきたので頭の中は完全にリフレッシュされてきた。

この映像作品は、語りが主だがモンゴルの遊牧民とともに一年の四季を通じて家族の一員となり取材をして作品にしたもので、私が今までにテレビを通じて見たものとは全く違う貴重な映像である。とても長い時間なのだがその長さを全く感じさせない素晴らしいものであった。「人間愛とは・・・、家族愛とは・・・、人は自然を愛し家畜と共に生きる」と問いかけられているように本当の人間の原点の生活を営んでいる遊牧民たち。

蛇口をひねれば水が出、ボタンを押せば電気がつき、物がありあまり、環境破壊になるゴミを平然と捨てる、それらが当たりまえになっている。自分たちでこの素晴らしい地球を壊していく・・・そんな恐ろしいような現実の世界に我々はどっぷりと浸かり平然と住んでいる。

21世紀の人間が生き残るための最大の課題である「Zero-Emission Recycle Initiative(ゼロ・エミッション)」をこの遊牧民たちは先祖からの言い伝えを守り通し自然と家畜と同居して遙か昔から今も変わらずにそれをこなして暮らしているのである。

わたしは、昨年来たときはガスっていて全く見えなかった美しい山々、「烏が山、象山」が素晴らしい雪化粧をほどこして「こっちのほうが面白いぞ～」と呼びかけてくれているようだ。今日は山スキーとシールも持参してきているのでレース中も気分はそちらにいつてしまっていた。

レース内容は、10 km走が私、早人、彰でキクちゃんは15 km走に出場である。コースは昨年同様に5 kmの周回。

スタートの号砲が鳴るや否や、フルスーツに身を来るんだトップ選手がロケットのように飛び出していく、今回はなんとか5 kmでの周回はまぬがれたものの、いつ見てもとんでもない速さである。



今年は昨年よりもしんどくなく昨日の映画のせいも手伝ってか余裕の笑みがこぼれていた。1周回目はキクちゃんと何故か競り合うような感じであったが、2周目の途中で昨日の酒が回ってきたのか付いて来なくなってしまった。彼は昨日に講習を受けたように逆八の字走法であくせくしているのだが、私はマイペースで「我らがクロカン走法」で板を滑らしていく。観客は「あの歩くスキーの人速いねえー」と言っていたが・・・??。アキラや早人も7～8分遅れで無事にゴール。

さあ、本日のメインイベントの「象山の山スキー」を楽しもうと、ボランティアの方々が作ってくださった豚汁、コーヒー、カレーを空腹に満たしていざ出陣・・・しかし何やらややこしい雲が立ちこめてきているのではないが、今の今まで快晴であったのに。「早人、とりあえず一本だけでも滑ろう」と板を担いで登っていくが、壺足ではつらいものがあるので私は途中でシー

壺足登行



る。

ルに切り替えて楽々に登っていく。しかし視界は上に行くほど当然悪く10mほどである。雪質は昼間の太陽に熱せられて終始ズブズブの重雪の腐れ雪である。

烏が山をバックに



視界が良ければ10分ほどで山頂に着くはずが慎重にして30分もかかってしまった。早人はグレンデスキーを担いで壺足で膝まで埋まりながらの登頂である。午前中はよく晴れていたのに・・・ここから見渡す景色は最高と思って期待を弾ませいたのに残念である。今見えるのは真っ白の世界である。

「早人、あまり離れるなよ!、尾根沿いを滑っていくからなっ、左右の急斜面はこの

腐れ雪ではデブるおそれがあるから気をつけよ。」と言いつつも少しコースを外れてしまい「ワァァ～、雪崩れたっ～。」と早人、まあたいした谷でもないので安心していただけが、約10mほどデブられていたようである。しかしこの重雪は板を回すのが困難きわまる。早人は山スキー初心者として非常に満足そうで、今シーズンはワカンを履いて板引っ張りで氷ノ山に行きたいと意気込んでいた。

雪が固まっている午前中にこの象山にシュ

プールを刻みたかったが、また来年の楽しみにしておこう。

今日は、「大山スキーマラソンに乾杯で象山に乾杯だ!」

思うように滑れない



競り合う